



女性が活躍している職場ですか?

政府が雇用・労働分野の成長戦略と位置づけ、取り組んできた「働き方改革」。2019年に働き方改革関連法が施行され、コロナ禍でテレワークやオンライン会議などが浸透し、改革も一気に加速した感があります。多様で柔軟な働き方が普及する一方で、少子化の中で貴重な働き手となる女性の活躍推進がより一層求められています。

今回は、男性中心と思われがちな業種や結婚・出産後も家庭と両立しながら活躍する女性技能士の働き方を紹介しています。多様な価値観と経験を持つ人がいる職場は、変化に強い職場です。ぜひこの機会に御社の現状や取り組みを見つめ直し、女性も輝ける職場について考えてみませんか。



発刊にあたって

2016年に女性活躍推進法が施行され、大企業は女性の育成や登用に向けた行動計画の策定・公表が義務となり、働く女性を後押しする仕組みが動き出しました。実際、さまざまな職場で女性の参加が見られるものの、その割合は依然として低い状況にあります。

全国の企業を対象とした帝国データバンクの意識調査によれば、女性管理職の割合は平均8.9%と推進法の施行後、過去最高の増加幅となっているものの、政府が掲げる女性管理職比率30%の達成には遠く及ばない結果となっています。女性が活躍するうえで大きな壁となっているのが、硬直的な長時間労働で、女性が仕事か子育ての二者択一を迫られるケースがまだまだ多く、第一子の妊娠・出産を機に約5割の女性が離職していると言われています。

このような状況の中、会員企業の中で子どものころからの夢だった仕事に就いたり、家 庭と仕事の両立させながら自分自身のキャリアアップを図ったりと素晴らしい活躍をされ ている女性がいます。今回、会員の中から IO 名の女性技能士の皆さんにインタビューし、 現在の仕事に就いた動機ややりがい、今後の目標などを取りまとめました。

協会では、今後もこのようなパンフレットなどの情報提供を通じて、会員企業の皆様の 新たな女性人材の確保や女性活躍の推進などに少しでもお役に立てるよう、知恵を絞りな がら取り組んでいく所存です。

なお、本書の作成にあたり、ご多忙の中、取材にご協力いただきました関係の方々に対 しまして、厚く御礼を申し上げます。

> 令和3年12月 石川県職業能力開発協会

> > 会長 中村 健一



女性技能士のお仕事紹介

P3 発刊にあたって 石川県職業能力開発協会 会長 中村 健一

P6~P7 フラワー装飾



小林 由佳さん さいだ花店 I級フラワー装飾技能士

P8~P9 フラワー装飾



高柳 理恵さん 七尾花正株式会社 I級フラワー装飾技能士

PIO~PII 和 裁



德山 美紀さん I級和裁技能士

PI2~PI3 ダクト板金



仲尾 真由美さん 株式会社伸幸ダクト工業所 I級建築板金技能士 (ダクト板金作業)

PI4~PI5 建築板金



永井 祐美子さん 有限会社ブリキンながい | 級建築板金技能士

PI6~PI7 造 園



引田 紘子さん 山名造園株式会社 2級造園技能士

PI8~PI9 造 園



巻下 千恵さん 千樹 | 一級造園技能士

P20~P2I 機械製図



松田 友維名 さん 中村留精密工業株式会社 I 級機械製図CAD作業技能士、I級機械保全技能士

P22~P23 建築板金



山田 千晶さん 株式会社タケノ I級建築板金技能士

P24~P25 タイル張り



山森 あきらさん 中橋タイル株式会社 2級タイル張り技能士

P26 石川県職業能力開発協会・入会のご案内

P27 女性技能士のお仕事紹介動画のお知らせ

※女性技能士の紹介は50音順

CONTENTS

小林 由佳さん

Profile

七尾市出身。子どもの頃から花が好きで、テレビで花を 扱う仕事をしている人を見て憧れを抱く。高校卒業後 いったんは服飾関係の会社に就職したが、夢を実現しよ うと生花店に転職した。風呂あがりにストレッチをして リラックスするのが日課。最近は料理に凝っている。



さいだ花店

所在地は七尾市。1949年5月創業。従業員数10人。代表は斉田惣四郎。 小売りやレッスンのほか、七尾市内の保育園で「花育」にも取り組んで いる。2007年の能登半島地震で被災し、現在地に移転した。





「仕事をすればするほどのめり込んで、もっと上手になりたいという気持 ちが大きくなりました」と働き始めた当初を振り返る小林さん





茎を切る際はハサミ(左) よりもナイフ(右)の方が 切り口が大きくなり、よ り多くの水を吸い上げら れるようになります。

仕事のやりがい!

お客様の喜ぶ顔

花束などを作った際、「思ってい た以上に素敵になった」と喜ん でいただけるととてもうれしいで すね。

国家資格までの道のり

2019年 1級フラワー装飾技能士取得

試験前の約半年間は、合格に向けて帰 宅後に夜遅くまで練習し、休日にはフ ラワーアレンジメントの先生にアドバイ スをもらいました。

さりげない会話から お客様の思いをくみ取る

小林さんは七尾市内にあるさいだ花店に勤め、切り花や 鉢物の管理・販売、花束やアレンジメントの作成などを担 当しています。

プレゼント用の注文を受けた際には、贈る人の気持ちを かたちにできるよう、どんな思いがあるのかさりげなく聞 くよう心がけているとか。「思っていた以上に素敵な花束 を作ってくれてありがとうと声を掛けていただくと、この 仕事をやっていてよかったと感じます」とにっこり笑いま す。中には、店をかわっても「小林さんにお願いしたい」 と足を運んでくれる人もいて、励みになっています。

時には野菜やワインなどを花と一緒にラッピングしてほ しいというオーダーが寄せられることもあります。「さま ざまな注文に応えるためには、感性やセンスが大事です」。 小林さんはそう話し、感性やセンスを磨くため、休日にフ ラワーアレンジメントのレッスンに通っています。美術館 に飾ってある絵や彩り鮮やかなスイーツからインスピレー ションを得ることもあるそうです。

扱ったことがない花は 自宅に飾って特徴をチェック

生き物である花を扱う仕事だけに、管理には細心の注意 を払っています。一番気を付けているのは水の管理です。 せっかくきれいな花が入荷しても、管理が悪ければ長持ち しません。そのため、にごりなどを小まめにチェックし、 適切なタイミングで水を交換します。扱ったことのない花 が入荷されれば、自宅に飾ってみて、その特徴を把握する ように心がけています。

限られた時間の中でさまざまな業務をこなすのは大変で

すが、小林さんは「仕事が好きで、辛いと思うことはあり ません。花に囲まれていると癒やされますし、元気が出ま す」と話します。季節ごとに入荷する花を使ってどのよう な商品を作ろうかと考えることも楽しみになっています。

磨いてきた技術の証がほしい 1級フラワー装飾技能士に挑戦

小林さんが1級フラワー装飾技能士の資格を取得した のは2019年のことです。実は15年ほど前に2級を取 得済みで、「自分の力を試してみたい。これまで技術を磨 いてきた証がほしい」と思い、受検を決めました。試験で は失敗もありましたが、練習の成果を十分に発揮して見事 に一発で合格を決め、「自信につながりました」と話します。

今後、力を入れていきたいと考えているのが人に教える ための勉強です。店ではフラワーアレンジメントなどの

レッスンを開催していて、小林さんも講師を務めることが あるのですが、自分ができるからといって、人に教えられ るわけではなく、また違った難しさがあるそうです。

「これからもずっと花に携わる仕事をしたい」。小林さん はそう目を輝かせ、「いつかは自分のお店を持ってみたい」 と希望に胸を膨らませています。



高柳 理恵まん



七尾市生まれ。小さいときから花が好きで、生け花を習っ ていた。名古屋の短大を卒業後、金沢市内の生花店に入り、 約5年間勤務。その後、七尾花正に入社した。最近は ボーイズグループ発掘オーディションから誕生した BE: FIRST にはまっている。推しは SHUNTO。



七尾花正株式会社

本社は七尾市。七尾市内に5店舗を構える。1973年7月創業。 資本金 1,000 万円。代表者は今井徹。従業員数 20 名。





「お客様のイメージを超えるものを作ることができて、思っていたより良 かったと喜んでいただけるとうれしいですね」と話す高柳さん





花切りバサミやナイフは 革製ホルダーに入れて常 に身に着けています。研 ぎに出すなど、しっかり とメンテナンスします。

仕事のやりがい! お役に立てる喜び?

プロポーズ用や記念日用の花な ど、人生の節目を彩るお手伝い ができることに喜びを感じます。

国家資格までの道のり

2012年

1級フラワー装飾技能士取得

仕事が終わってから夜遅くまで練習す るなど、約1年前から検定試験に備え て対策。経験を踏まえ、資格取得を目 指す後輩にもアドバイスしています。



新しい品種や季節ごとの花を 見られるのが何よりの楽しみ

高柳さんは七尾花正がベイモール七尾内にオープンした 生花園芸店「cue (キュー)」の店長を務めています。「花 が好きなので、新しい品種や季節ごとの花を見られるのが 楽しいですね。人と話すのが好きなので、接客も楽しみな がらやっています」。

そんな高柳さんが印象的な仕事として挙げてくれたのが プロポーズの時に渡す花の注文です。「バラの花束を贈り たいと決めている方もいれば、花の種類や色を相談しなが ら作り上げた方も。中にはサプライズで部屋中を花びらで 埋め尽くしたいという方もいらっしゃいましたね」。

後日、「おかげさまで成功しました」と報告に来てくれ たり、カップルで花を買いに来てくれたりすると、お役に 立てたという喜びがじわじわとこみ上げてくるとか。「お 花は誕生日のお祝いやブライダルなど、大事な場面で使わ れることが多いので、プレッシャーもありますが、その分 やりがいもありますね」と話します。

全国の熟練技能士と真剣勝負 技能グランプリで敢闘賞を受賞

「国家資格は一生もの」と考え、1級フラワー装飾技能 士を取得したのは約9年前にさかのぼります。「手当も付 きますし、自信にもつながりました。制限時間の中で、課 題を仕上げられるよう特訓しましたから、作業スピードが 速くなりましたね」と振り返ります。身に付けた技能を受 け継いでいきたいと、資格取得を目指す後輩たちの指導に も熱心に取り組んでいます。

また、高柳さんは業界団体が主催するコンテストや1 級技能士等が出場できる「技能グランプリ」にも積極的に 挑戦しています。県の代表として出場した2017年の第 29 回技能グランプリでは敢闘賞に輝きました。

「同じ材料を与えられても、仕上がりは人によって全然 違います。いろんな人のスキルや感性を見られるので勉強 になりますし、自分自身の技術やセンスがどのように評価 されるのかを確かめられる貴重な場になっています」。

ワークショップを開催し、 花に触れてもらえる機会を増やしたい

店頭で花に携わる仕事を目指す学生からアドバイスを求 められることもあり、そんなときには「いろんな経験が役 に立つ」と話しています。字がうまければメッセージをき れいに書けます。絵が上手ならブーケなどの打ち合わせを する際、スケッチで分かりやすく提案することができます。 ファッションが好きなら、カラーコーディネートのセンス が花束づくりなどで生かされます。あらゆる経験が仕事に 応用できるというわけです。

今後は「季節ごとにフラワーアレンジメントやドライフ ラワーを使ったリースづくりなどのワークショップを開催 して、花に触れてもらえる機会を増やしてきたい」と話す

高柳さん。花の 魅力を伝えるた め、仕事にもま すます熱が入り ます。



德山 美紀 さん

Profile

金沢市生まれ。子どもの頃から手芸が好きだった。地元の短大を卒業後、企業で事務職として働く傍ら、趣味として文化センターで和裁を習い始める。会社を辞めた後、和裁を仕事にできたらと考え、21歳で和裁士に弟子入り。技術を習得し、26歳で独立した。

一針一針、心を込めて縫ってお客様にとってはかけがえの

います







仕事のやりがい! (分別では) 見られること (おります)

着物ができ上がるまでには多く の人が携わります。その中でも の人が携わりましさを真っ先に見ら 完成形の美しさをすったに見られることが喜びです。



ラジオや音楽を聞きながら仕事する徳山さん。後進の育成にも力を入れ たいそうで、「興味を持ったらぜひやってみてほしい」と呼び掛けます



では事の相様

絹糸の右上にある指ぬきは鹿革を二枚重ねて自作したもの。運針の際には指ぬきで針を押しながら、縫い進めます。

国家資格までの道のり

2007年

1級和裁技能士取得

修業時代に2級を取得。一つ上の先輩が1級を取得したのを間近で見て、 自身も受検を決めました。実技試験 に向けては師匠の助言を得ながら練習に励みました。

着物を着た姿の写真を見て とてもうれしい気持ちに

徳山さんは反物を裁断して縫い合わせ、着物に仕立てる 和裁士です。一枚の着物を通常、3日ほどで仕上げます。

「着物はとても多くの工程を経て作られますが、美しい 完成形が見られるので和裁士は役得ですね。実際に着た姿 を写真で見せてもらえると、すごくうれしい気持ちになり ます」。

独立して仕事をするようになってから約15年、徳山さんのもとには呉服店などからさまざまな注文が寄せられます。中でも驚いたのは力士の着物だったとか。「寸法がとにかく大きくて、本当にこれでいいのかと心配になるくらいでした」と振り返ります。

「今でも一番緊張する」と徳山さんが話すのが「肩明き」 という部分にはさみを入れる瞬間です。肩明きを切った後 は着物の長さの変更ができなくなります。和裁士は着たときに最も美しく見えるように柄の配置を考慮しながら着物を仕立てるのですが、その調整も難しくなります。何百万円もする高価な着物を扱うこともあり、絶対に失敗しないよう、細心の注意を払って仕事を進めます。

習い事で始めた和裁が いつしか一生の仕事に

徳山さんが和裁に出会ったのは、会社勤めをしていた 20歳の頃です。文化センターの案内を見て目にとまり、 習い事として始めました。その後、会社を辞めて自分の将 来を考えるうち、和裁をちゃんとやってみたいという気持 ちが芽生え、和裁士の下に通って指導を受けるようになり ました。

最初は和裁の基本である「運針」の練習からスタートで

す。運針は長い距離をまっすぐ縫う技術です。これができるようになると、簡単な仕事を手伝いながら腕を磨きます。

5年後、徳山さんは26歳で独立を認められました。その翌年には1級和裁技能士の資格を取得しました。

「技術力の証明になりますし、名刺に印刷してあるのを 見て気付いてくれる人もいますから、今では資格を取って よかったと思っています。何歳になってもできる仕事です から、一生続けていきたいですね」。

着物を着る人を増やしたい 和裁士をもっと身近な存在に

和裁士として働く前は成人式くらいしか着物を着る機会がなかった徳山さんですが、最近では着付けを習い、新年会などには和装で出掛けるようにしています。

「お客様から着物を着て結婚式などに出ると、その場の

格が上がるという話を聞き、自分でも着るようになりました。仕立てる際、どこに気を付ければ着心地がよくなるのか、以前よりもよく分かるようになりました」。

今後は技術の向上だけでなく、和裁士をもっと身近に感 じてもらうことが目標です。

「着物について気軽に相談してもらえる存在になりたいです。そして、たんすに眠っている着物を着る方が増えてくれるとうれしいですね」。



仲尾 真由美さん



金沢市生まれ。短大を卒業後、会計事務所勤務を経て、1995年に伸幸ダクト工業所に入社。事務だけでなく、職人としても活躍する。おしゃれをするのが好きで、指先はセルフネイルで彩っている。美しい字を書きたいと筆ペン教室に通う。



株式会社伸幸ダクト工業所

ダクトの製作、取り付けを専門に手掛け、商業施設や公共施設、工場などさまざまな現場に対応する。本社は金沢市。1978年設立。資本金300万円。代表者は種田秀明。従業員数12名(1級技能士3名、2級技能士2名)。





Social Report of the Coops of

柳刃や差し金、スケール、 ハンマーなど。 昔と比べ れば多くの作業が機械化 されていますが、こうし た道具も欠かせません。

仕事のやりがい! ・縁の下の力持ち

ダクトは建物の快適性を保つために欠かせません。 県内の大規めに欠かせません。 県内の大規模プロジェクトなどを陰で支えて模プロジェクトなどを陰ですることに誇りを感じています。

国家資格までの道のり

2016 年 1 級建築板金技能士 (ダクト板金作業) 取得

検定前の3カ月間は、仕事の合間を縫って練習に励みました。 不合格でも諦めずに挑戦する仲尾さんを見て、 同業他社の職人も作業のこつを伝授するなど、 応援してくれました。



設置場所に合わせてオーダーメイド 空間を快適に保つ重要な設備

仲尾さんはダクト板金作業のプロフェッショナルです。 ダクトとは配管の一種で、空調設備で作りだした冷気や暖 気をビルの隅々にまで送り届けたり、建物の外から中へ新 鮮な空気を取り込んだりする際の通り道として使われてい ます。

こうしたダクトは、設置場所に合わせて効率的にレイアウトするためオーダーメイドで作られています。空調設備会社からの注文に合わせ、大きな鉄板を切ったり、曲げたり、溶接したりして筒型のダクトに仕上げるのが仲尾さんの仕事です。

仲尾さんの作ったダクトは県内の大型の商業施設や公共 施設、工場などで使われています。通常は天井裏などに設 置されるため、目にすることは少ないのですが、建物の中 を快適に保つために重要な役割を果たしており、仲尾さんは「施設の裏側や地下駐車場などで、自分が作ったダクトを見ると誇らしい気持ちになります」と話します。

苦労する父を助けようと入社 事務を手伝うつもりがいつしか工場へ

伸幸ダクト工業所は仲尾さんの父親が創業した会社です。仲尾さんはもともと、別の仕事をしていましたが、父親が苦労している姿を見て、助けてあげたいと思うようになり、同社に入社しました。

昔から、ものづくりに興味があったという仲尾さん。「四角のものや丸いもの、カーブしているものなど、鉄板がいるんな形になっていくのが面白く感じました。最初は事務だけを手伝うつもりだったのですが、きれいにできるとうれしくて、いつの間にか工場でも仕事をするようになって

いました」と振り返ります。

やるからには受かりたい 3 度目の挑戦で 1 級技能士に合格

仲尾さんは 2016 年に 3 回目の挑戦で 1 級建築板金技能士の検定に合格しました。

「最初は冷やかし受検のような気持ちだったのですが、 落ちると悔しい気持ちがこみ上げてきて、やるからには受かりたいと思うようになりました」。

腕力が弱いため、制限時間の中で課題を完成させるのに 苦労しましたが、何度も繰り返して作業を体に覚えさせ、課 題が見つかるたびに対策を考えて合格を勝ち取りました。

資格取得後は技術を伝承したいという思いが芽生え、職業訓練指導員の免許も取得。4年前に入社した長男や海外からの技能実習生にも熱心にアドバイスを送っています。

もちろん、職人としてもまだまだ現役で、「いい加減な 仕事をしていては信用がなくなります。現状に甘んじるこ となく、技術力をレベルアップさせていきたい」と意欲を 燃やします。

業界にはまだまだ女性は少ないのですが、「意欲ある女性がいれば、ぜひ一緒に働いてほしい。ゆくゆくは女性も働きやすい工場を建てたい」と夢を描いています。



永井 祐美子さん

Profile

金沢市生まれ。高校を卒業後、歯科助手やアパレル関係の仕事をする。結婚後、義父が創業したブリキンながいの仕事が忙しくなると、事務を手伝いながら2男2女を育て上げた。観葉植物や花を育てるのが趣味。5人の孫と遊ぶのも楽しみの一つになっている。



有限会社ブリキンながい

屋根・外壁工事のほか、遮熱リフォーム、雨どい工事を手がける。「ブリキン」はオズの魔法使いに登場するブリキの木こりの名前に由来、本社は金沢市。1966年1月創業。資本金500万円。代表者は永井紀久。従業員数6名。





職人としてだけでなく、事務仕事も担当。どの仕事も「段取り八分」を 心がけ、事前の準備をしっかりするようにしています





現場で他の職人さんの ものと区別できるよう、 永井さんはすべての道 具にハートマークのシー ルを貼っています。

仕事のやりがい! %作ったものが ずっと残ること 街中で自分が手がけたものを見 はなど、一緒にいる人につい、

街中で自分が手がけたものを允 かけると、一緒にいる人につい、 かけると、一緒にいる人につい、 「私がしたんやよ」と言ってしま いますね(笑)。

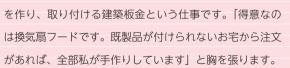
国家資格までの道のり

2021年 1級建築板金技能士 取得

受検する際には約2カ月半前から1日4、5時間、夫で社長の紀久さんに 指導を仰ぎながら、実技試験に向けた練習に励みました。

気分を上げてくれるネイル 仕事中のけが防止にも

永井さんが携わっているのは、 薄い金属の板を切ったり、曲げた りして、屋根や外壁、雨どいなど



そんな永井さんが「仕事に欠かせない」と話すのが、指 先をおしゃれに彩るネイルです。実はこれ、ジェルネイル と呼ばれる樹脂を硬化させたタイプ。金属板のへりを叩い て曲げる際に誤って自分の指を道具で打ち付けたときなど でも爪をしっかりガードしてくれるのだとか。

気分を上げてくれるだけでなく、けがの防止にも役立つ とあって、今では県内の板金女子の間でちょっとしたブー ムになっています。

訓練校で板金の面白さに目覚め 50代で職人の道へ

永井さんは遅咲きの職人です。54歳で金沢市内にある 訓練校に通い、卒業した2018年に2級、21年に1級建 築板金技能士の資格を取得しました。

それまでは建築板金業を営む夫の会社の事務を手伝っていたのですが、専門用語が分からないので、お客さんからの電話もちんぷんかんぷん。そんなとき、運転免許を持っていない新入社員を訓練校まで送迎することになり、「この際、私も学びたい」と入校を決めました。

「それまで分からなかった用語が分かるようになったのがうれしかったですね。ものづくりもすごく楽しくて、自分は板金の仕事が好きなんだと気が付きました」。

現在は銅製の雨どいなど、オーダーメイドの製品づくりを中心に仕事に励んでいます。一番の思い出となっているのは2020年7月に完成した金沢城鼠多門の復元工事に参加したことです。「上手にできなくて苦しいときもありますが、作ったものがずっと残るのがやりがいです」と笑顔を見せます。

金沢職人大学校で学び将来は金澤町家の修復を

建築板金の魅力に目覚めた永井さんの向上心はとどまることがありません。仕事の幅を広げようと、高所作業車を運転する資格や玉掛けの資格を取得しました。技能と知識力をさらに高めるため、昨年から金沢職人大学校にも通っています。

ゆくゆくは歴史的建造物の修復を学ぶ同校の専攻科に進

む計画で、「地元に残されている古い町家の修復に携わり たい」と夢を膨らませています。

業界では女性職人が少しずつ増えていて、その声がきっかけとなって、工事現場では誰もが働きやすい環境を目指した改善が進んでいます。

「女性の職人が増えれば女子会もできるし、もっと仕事が楽しくなると思っています。ものづくりに興味がある女性はぜひ訓練校に入って、建築板金の面白さを感じてほしいですね」。



引田 紘子さん



北海道札幌市生まれ。専門学校を卒業後、幼稚園教諭を 7年間務める。その後、長野県の国立公園を管理する仕 事を経て、山名造園に就職した。昆虫が好きで、仕事中 に見かける虫たちが癒やしになっている。休日は美術工 芸に関する展覧会などに足を運び、感性を磨く。



山名造園株式会社

本社は金沢市。1962年1月創業。資本金1.000万円。代表者は山名和成。 従業員数 4 名。先代は「現代の名工」にも選ばれた石積みの名人で、そ の DNA を今も引き継ぐ。



日焼けしないよう作業用マスクを付けています



国家資格までの道のり お仕事の相称 COOD C

2021年 2級造園技能士取得

仕事のやりがい!

自然との触れ合い

自然が好きなので、植物に直接 触れ、小さな変化や生命力を感 じながら仕事をできることがやり

がいになっています。

検定前の休日には会社が提供してくれ た場所や材料を使って練習に励みまし た。組合が催す講習会で学んだことも 力になりました。





よく寝て、よく食べ体力アップ 分からないことはその日に解決

引田さんは造園の仕事に就いて間もない駆け出しの職人 です。清掃業務から始まり、最近では高い木に登って作業 したり、せん定を任せられたりと、少しずつ仕事の幅を広 げています。

「自然が好きなので、植物に直に触れられるのがうれし いですね。芽吹きなど、樹木や草花の小さな変化や生命力 を感じながら仕事できることがやりがいになっています」。

苦労するのは力仕事です。体力を付けるため、普段はしっ かりと食べ、よく眠って翌日に疲れを残さないよう心がけ ているとか。徐々に体力がつき、今では腕に力こぶができ るようになりました。

まだキャリアが浅いため、知識が乏しいことも課題の一 つ。植物はもちろん、石や土、空間デザインなど、造園に は広範囲の知識が求められます。そのため、仕事で分から なかったことがあれば、その日のうちに必ず調べるなど、 家での勉強も欠かしません。

熱意あふれる職人の 生き方に魅了され造園の道へ

引田さんが造園業界に飛び込んだきっかけは、自身の将 来について悩んでいた頃、石川県造園組合が主催する研修 会に参加したことでした。

「自然に囲まれた環境で働きたかったことに加え、手に 職をつけ、一生続けられる仕事に就きたいと考えていまし た。研修会に参加し、講師の方が熱意のある人ばかりで、 格好いいなと思い、この道に進むことを決めました」。

研修時に組合の理事長から「好きな庭があるから見せて あげる」と連れて行かれたのが、山名造園の敷地内にある 庭でした。この庭に一月ぼれした引用さんは「造園を学ぶ ならここしかない」と思い、同社への入社を志願しました。

まったくの未経験で不安もありましたが、入社後に先代 から「失敗してもいいんだから、何でもやってみて」とい う言葉を掛けてもらい、「とにかく今できることを精一杯 やろう」という気持ちになったと振り返ります。身近にい る女性の先輩や技術の卓越した職人も心強い存在です。

金沢は庭づくりを学ぶ最高の場所 腕を磨きお客様のニーズに応えたい

引用さんは 2021 年に 2 級造園技能士の資格を取得し ました。検定試験の前には組合が主催する講習会に参加。 「ベテランの講師陣からさまざまな手法を学ぶことができ ましたし、同じくらいのキャリアの職人さんと一緒に勉強 し、切磋琢磨する環境も刺激になりました」と話します。

兼六園をはじめ、美しい庭園が数多く残る金沢。「街中 にある公園の何気ない木も大切にされていて、造園の技術 を学ぶには最高の場所です。しっかり勉強して技術を磨き、 お客様から求められたことに適切に応えられる技能士にな りたいですね」。自身の将来についてそう力を込める引用 さん。その凛とした表情からは、庭づくりを一生の仕事 としてやり遂げようとする覚悟がひしひしと伝わってき ました。





巻下 千恵まん



加賀市出身。県内の短大を卒業後、一般企業に就職。退職後、 職業訓練校の造園科で学び、造園会社で働き始める。40歳で 独立し、千樹園を立ち上げた。2021年の金沢マラソンに出場。 フルマラソン初挑戦ながら見事完走を果たした。今後は仕事 にも役立ちそうなツリークライミングに挑戦したいそう。



千樹園

所在地は加賀市。2018年2月創業。代表者は巻下千恵。庭の設計・施 工・管理、バラ園・花壇管理を手掛ける。地元の寺社や文化財の管理も 任されており、歴史が古く貴重な地域の財産を健全な姿で後世に残せる ように力を尽くしている。社名の「千」は自身の名前に由来する。





高所で刃物を使うような危険な作業をすることもあり、「無事終えられる



が仕事の相然 COOD C

植木ばさみやせん定ば さみ、のこぎりなど。 下部中央にあるのは手 甲 (てっこう)。大事な 芽をそでに引っ掛けて 落とさないように着け ています。

仕事のやりがい! 66 毎日が挑戦 25

一口に庭と言っても、一つとして 同じ現場はありません。日々違う ことに挑戦し続けられる点がやり がいになっています。

国家資格までの道のり

2010年 1級造園技能士取得

試験の2カ月前に課題が発表されて以 降、毎日練習に明け暮れました。検定 会場となる県立翠星高校の先生に頼み 込み、本番と同じ環境でも特訓させて もらいました。

理想の庭づくりを求めて独立 マニュアルがないからこそ楽しい

巻下さんは個人宅や文化施設、神社・仏閣などの庭づく りや維持管理を手がけています。自分が理想とする庭づく りを追求したいと、それまで勤めていた会社から4年前 に独立。開業以来、口コミで評判が広がり、忙しい日々が 続いています。

「木は1本1本に個性がありますから、その木がもとも と持っている良さを大事にするよう心がけています。マ ニュアルはありません。だからこそ、どんなふうに仕上げ るかを考えるのが楽しいですねし。

高所での危険な作業や難しい注文もありますが、「日々 違う仕事に挑戦できることがやりがいになっています」と 話します。

季節の移り変わりを 感じられる仕事に魅力

短大を卒業後、一般企業でしばらく働いていた巻下さん。 造園業界に入ったきっかけは愛犬が何を見ているか気にな り、同じ目線で景色を見てみたことでした。

「普段なら目に留まらないような自然界の小さな変化に 気付かされ、四季の移ろいを感じられる仕事がしたいと思 うようになりました。その後、京都の庭園を見て"これだ!" と思い、職人の世界に飛び込む決心をしました」。

職業訓練校で基礎を学んだ後、造園会社に入り職人の道 を歩み始めた巻下さんでしたが、駆け出しの頃は思うよう に仕事ができず、先輩から厳しい言葉を掛けられたことも ありました。一方で「悔しかったら勉強して見返してやれ」 と応援してくれる人もいて、巻下さんはこの言葉を糧に研 さんを積み、腕を磨いて、1級造園技能士などの資格を取

得しました。

うれしかったのは、1級技能士等が腕を競う「技能グラ ンプリ」に2019年に出場した際、職人仲間が会場のあ る姫路まで応援に来てくれたことでした。完全にアウェイ の状況での作庭とあって、プレッシャーを感じていました が、地元ナンバーの車を見ただけで、気持ちが落ち着い たそう。「残念ながら入賞はできませんでしたが、一生に 一度あるかないかの貴重な経験ができました」と振り返 ります。

尊敬する職人の仕事が手本 樹木医の資格取得を目指す

独立後も先輩職人と仕事をする機会は多く、巻下さんは 「皆さん、惜しみなく技を教えてくださったり、励まして くださったり、尊敬できる人ばかりで、技術だけでなく人 間性も見習いたいと思っています」と話します。

最近刺激を受けているのはある職人さんの仕事ぶり です。

「枝の先まで魂を吹き込んでいるのではと思うほどきれ いな仕事をされます。掃除も丁寧で、道具も大切に使って います。仕事をしていて、この辺でいいかなと思っても、 その人だったらどこまでやるかなと考えて、出来映えを見 直すようにしています」。

ロープ1本で高い場所にある枝先まで行って仕事する など、まだできないこともたくさんあるため、「将来は何 でもできて何でも知っている本物の庭師になりたい」と話 します。

木の健康状態を診断したり、治療したりする樹木医の資 格取得も目標の一つで、来年の受験に向け、仕事の合間を 縫って勉強に励んでいます。

松田 友維名さん

Profile

白山市生まれ。県外の大学で機械工学を学んだ。大 学時代に実習で扱ったことをきっかけに、工作機械 に興味を持つ。就職活動では地元の工作機械メー カーを志望し、中村留精密工業に入社した。3年目 から開発設計業務に携わる。



中村留精密工業株式会社

工作機械や光学機械の開発、設計、製造、販売を手がける。販路はヨー ロッパを中心に世界 55 カ国に広がり、輸出比率が 70%を占めるグロー バルカンパニー。本社は白山市。1960年12月設立。資本金3億円。 代表者は中村健一。従業員数 580 名。









松田さんはスヌーピーも 登場するアメリカの漫画 「ピーナッツ」の大ファン。 デスクにあるグッズが癒 やしになっています。

仕事のやりがい! 公社会貢献?

工作機械は身の回りの多くのも のを作るのに欠かせない機械で す。だからこそ、社会に貢献でき ているとやりがいを感じます。

国家資格までの道のり

2019年

1級機械製図CAD作業技能士 取得 2021年

1級機械保全技能士取得

中村留精密工業では、検定前にベテラン社員 が先生役となって指導する合格プロジェクト が受検者を後押し。「仲間と一緒だったので、 モチベーションも上がりました」(松田さん)

何気ない感謝の言葉が 仕事の励みに

松田さんの仕事はCADを使った工作機械の設計です。 工作機械とは金属などの素材を切断したり、削ったりして、 求められる形やサイズに加工する機械のことです。松田さ んは「車や飛行機も工作機械がなければ部品ができません から、社会に貢献できていると感じられることが仕事のや りがいになっています」と話します。

中村留精密工業では、1台の工作機械を4、5人の社員 が手分けして設計しています。新機種が1台でき上がる までには、通常1年くらいかかるとか。

「自分が設計に携わった機械が組み上がったときは感動 します。ミスをして迷惑をかけることもありますが、先輩 や上司から、"ありがとう、助かったよ"と声をかけても らえると、頑張ってよかったなと思います」。

誰もが使いやすい機械を作るため 女性日線からの意見も

大工だった祖父の影響もあり、子どもの頃から工作など、 ものづくりが好きだったという松田さん。機械工学を専攻 した大学時代に実習で工作機械を扱って「面白い」と感じ、 この業界への就職を志望しました。

設計は未経験で、CADを触ったこともありませんでし たが、工作機械を一から作るところに魅力を感じて設計職 を希望し、入社3年目から今の仕事に携わるようになり ました。当時、設計士の女性は松田さんともう一人だけ。 それでも、先輩が気さくに話しかけてくれたため、「働き にくいと感じたことはありませんでした」と振り返ります。

日々の仕事では、従来の機械やライバル会社の機械より も、機能性や利便性をアップさせるため、前例にとらわれ ずに考えるよう心がけています。最近はものづくりの現場 で働く女性が増えているため、力が弱い人や背の低い人で も使いやすくできればと、デザインなどを検討する際、女 性目線で意見を出すこともあるそうです。

設計を志す女性に対し、松田さんは「女性の強みを生か せる場面もありますから、設計に興味があれば、男性が多 い仕事だからと尻込みせず、積極的にチャレンジしてほし い」とエールを送ります。

設計チームのリーダーに抜擢 目指すは信頼される設計者

松田さんは2年前に1級機械製図CAD作業技能士の 資格を取得しました。試験勉強を通じて、「今まで感覚的 にやっていた仕事を論理的に理解し、的確にできるように なりました」と話します。

今年は初めて、ある機械の設計チームのリーダーに抜擢

されました。「任せてもらえてうれしい反面、プレッシャー も感じています。まずはこの機械を、お客様に喜んでもら えるようないいものに仕上げたいと思います。そして将来 は松田に任せておけば大丈夫と信頼される設計者になりた いですね」。そう話す松田さんの目は希望に燃えています。



建 築 板 金

山田 千晶さん



加賀市生まれ。大学を卒業後、24歳で東京から U ターンしてタケノに入社。事務として働き、2年後に結婚して退職した。子育てに区切りが付いた40代半ばから再び同社で働くようになり、訓練校を経て建築板金職人に。 趣味は旅行。



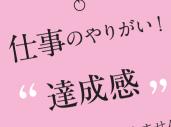
株式会社タケノ

屋根・外壁・雨どいの工事が専門で工場や体育館から住宅まで幅広く施工する。建築板金業では 1984 年以降、年間売上高県内ナンバーワンを維持する。本社は野々市市。 1923 年創業。資本金 1,400 万円。代表は竹野一茂。従業員 33 名。





写真左は鉄板をつかんで曲げる「つかみ箸」。 油を差し、雨に濡れたら拭いて乾かすなど、 どれも大事に使っています。



完成しない現場はありません。 時には辛いこともありますが、仕 時には今いこともありますが、仕 上がった時には大きな達成感が 感じられます。

国家資格までの道のり

2019年

1級建築板金技能士取得

実技試験に向け、約1カ月前から平日の業務終了後や休日に特訓。前年の不合格を乗り越え、2回目の受検で県内女性初の合格を勝ち取りました。



前年の不合格を乗り越え 県内女性初の1級建築板金技能士に

工場や倉庫、体育館などの屋根や外壁を金属の板で作り、 施工する山田さん。実は石川県で第1号となる女性の1 級建築板金技能士です。

ただ、その道のりは決して平坦ではありませんでした。 実際の現場では機械化されている工程もたくさんあるので すが、技能検定の実技試験はすべてが手仕事。女性は男性 よりも力が弱いため、同じものを作るにしても時間がかか ります。制限時間までに課題を仕上げられず、1回目の挑 戦は不合格に終わりました。

しかし、山田さんは諦めませんでした。2回目の試験に臨む際には、前年の反省を生かして完成までのタイムスケジュールを立て、これを確実に実行できるよう、約1カ月にわたって、平日の業務終了後や休日に特訓に励みまし

た。努力が実り、見事合格を勝ち取った瞬間、喜びで胸が いっぱいになったそうです。

女性ならではの繊細な仕事で ^{ねずみたもん} 金沢城鼠多門の復元に貢献

女性は男性に比べて力が弱いとはいえ、実際の現場では 必ずしもハンデにはなりません。「ビッグプロジェクトな ので、携われてうれしかったです」と山田さんが振り返る 金沢城鼠多門の復元工事でも女性職人の良さが存分に発揮 されました。

それはゴムを貼った木づちで鉛の板をたたいて伸ばし、 成形する作業を担当したときのことです。男性の職人では、 たたく力が強すぎて板を割ってしまうケースもありました が、山田さんら女性職人は細やかな力加減できれいに仕上 げました。 もちろん、現場での仕事に体力は不可欠ですが、「木づちで金属板をたたくのは二の腕のダイエット、足場を上るのはロッククライミングだと思ってやっていれば、全然苦になりません」と明るく笑います。

父に勧められ 40 代で訓練校へ 男性職人に交じって屋根で仕事も

転勤族の夫と結婚して専業主婦として全国を転々としていた山田さんが、祖父が立ち上げたタケノに入社したのは40代半ばのことでした。会長を務めている父から「訓練校に行ってみたら」と勧められたのをきっかけに職人の道を歩み始めました。

山田さんは「板金って何?という状態からのスタートで したが、自分の子どもと同じくらいの年代の生徒に交じっ て、試行錯誤しながらものづくりするのが楽しかったです ね」と笑顔を見せます。卒業後は男性の職人と共に現場に 出るようになり、もちろん屋根に上って仕事することもあ ると言います。

「技術を極めることは永遠にない」との思いから、現在は会社の仕事のほか、金沢職人大学校に通って技術を磨く 山田さん。「将来は金沢城二の丸御殿の復元工事に携わりたい」と腕まくりしています。



男性の職人さんは優し

一ンが取り

やすい

です

山森 あきらさん

Profile

金沢市生まれ。高校を卒業後、中橋タイルに同社初の女性タイル職人として入社した。2020年の「第58回技能 五輪全国大会」に出場し、銀メダルを獲得した。休日は 愛車でドライブを楽しんでいる。



中橋タイル株式会社

タイル張りの技能士資格を持つ職人が多数在籍し、高い技術力で、石川 県庁やいしかわ総合スポーツセンター、金沢大学など、さまざまな施設 のタイル工事を手掛けている。本社は金沢市。1915 年 5 月創業。資本 金 4.250 万円。代表者は中橋降文。従業員数 37 名。



仕事のやりがい!

でき上がった建物を最初に見られること

タイル張りは仕上げの工程です。 建物の完成形を真っ先に見られる ことがやりがいになっています。



「いかにきれいにまっすぐ張るかが、タイル職人の腕の見せ所です」と話 す山森さん





上段左から3つはクシゴテ。コテのクシ目を使って壁などに塗った接着剤に山と谷を作り、谷の部分を潰すようにタイルを張り、密着させます。

国家資格までの道のり

2020年

2級タイル張り技能士取得

職業訓練校を修了したため、学科試験 は免除されました。2022年は1級の 受検を予定しています。

出来がよければ自慢に 悪ければ後悔に

山森さんは建物の壁や床などにタイルを張る職人です。 1枚1枚のタイルを、いかにまっすぐ、きれいに張るかが 腕の見せ所です。

全体のバランスも重要なポイントです。一見、真四角に 見える壁でも、厳密に測定すると必ず若干のゆがみがある のだとか。タイル張りは仕上げの工程ですから、完成した 際にそのゆがみを感じさせないようまったくの均等ではな く、微調整しながらタイルを張ります。

「でき上がりを見られるのが一番の楽しみ」と話す山森 さんが今までで最も印象に残っている仕事は、数え切れな いほどのタイルを張った金沢市役所第二庁舎です。自分よ りも長生きするような建物にタイルを張る機会も多く、い い仕事ができれば子どもや孫にも自慢できる反面、出来が 悪ければ一生後悔することになるかもしれないため、気を 引き締めて仕事に取り組んでいます。

会社で初めての女性職人 先輩が優しくフォロー

就職活動時、父親や親戚が働く建設業界に進みたいと考えていた山森さん。求人募集している会社を高校の先生と調べていた際、中橋タイルが目に留まってタイルに興味がわき、会社説明会に参加したことが入社のきっかけになりました。

実は同社が女性職人を採用するのは初めてのこと。山森 さんは「男性ばかりの職場で最初は不安もありましたが、 皆さん優しくて、すぐにここなら大丈夫だと思いました」 と当時を振り返ります。

入社後はまず、タイルメーカーが愛知県で開設している

職業訓練校に半年間通って、基礎的な知識や技術を身に付けました。専門校には全国から職人の卵が集まってきます。 「女性も6人いて、今でも連絡を取り合う県外の友達がたくさんできました」と話します。

金沢に戻ってからは先輩と一緒に仕事をしながら経験を 積み、腕を磨いています。

技能五輪で銀メダル 後輩の指導も熱心に

2020年11月には、未来のものづくりを担う23歳以下の技能者が腕を競う「第58回技能五輪全国大会」に出場し、見事、銀メダルに輝きました。

「中橋タイルの職人が技能五輪に出場するのは初めてで、 まさか入賞できると思っていなかったのでうれしかったで すね」。 インターネットのライブ配信で結果を知った先輩から は、祝福の電話が何本も掛かってきたそうです。

「将来は先輩のように一つの現場を任せてもらえるようになりたい」と意欲を示す山森さん。今では6人の後輩の先輩として指導にもあたっています。少し残念なの

はまだ女性の後輩がいないこと。「材料が重くて大変なこともありますが、女性にとっても働きやすい職場なのでぜひ入社してほしい」と話し、よい手本になれるよう今日も仕事に励んでいます。



石川県職業能力開発協会・入会のご案内

石川県職業能力開発協会は、職業能力開発促進法に基づき石川県知事の許可を受けて設立された法人で、 働く人に求められる職業能力を公平・公正・適正に評価し、一人一人のキャリア形成を支援するとともに、企業 の人材確保にも貢献することを目指して、各種事業を実施しております。

協会が提供する4つのサービス

│ 人材育成のサポート

- 階層別研修等の開催
- ●職業訓練指導員講習(48時間講習)の開催
- 監督者訓練の開催
- 経験交流プラザの開催

2 職業能力の評価認定

- 技能検定試験(国家検定試験)
- ●コンピュータサービス技能評価試験
- ビジネス・キャリア検定試験

3 ものづくり振興と技能の継承のサポート

- いしかわの技能まつりの開催
- ●若年者ものづくり競技大会参加選手の支援
- ものづくりマイスターの派遣支援
- 技能五輪全国大会参加選手の支援
- ●技能グランプリ参加選手の支援
- 協会長表彰等の実施
- 石川県技能士会との連携

相談支援・情報サービス提供

- 教育ビデオソフト・DVD 等の無料貸し出し
- メールマガジンによる情報の配信
- 技能検定学科試験等問題集・解説集の販売

会 費

年会費(4月1日~翌年3月31日)の額は次のとおりです。

- 認定職業訓練を行う会員は、15,000円に当該訓練校に在籍する訓練生1人につき700円を乗じた額を 加えた額とする。
- 職業訓練又は職業能力検定の推進のための活動を行う会員は、それぞれ次に掲げる額とする。

◎会社会員

従業員数	年会費額	
300人未満	10,000 円以上	
300人以上1,000人未満	25,000 円以上	
1,000 人以上 3,000 人未満	50,000 円以上	
3,000人以上	75,000 円以上	

◎団体会員

団体の種類	年会費額
単位団体	10,000 円以上 100,000 円
連合団体	10,000 円以上 150,000 円

本協会の目的に賛同するものについては10,000円以上とする。

石川県職業能力開発協会では、技能検定試験に合格され、技能士となられた方々の士気を高揚し、あわせて社会的・経 済的な地位の向上を図るため、技能士手帳、門標を斡旋しています。



技能士手帳

表紙黒皮、美装、紙質最上質 24 ページ 縦 7.55cm / 横 11cm

価格 **1冊 1.000** 円



技能士門標

真鍮金属板 (表面防錆加工) 縦 34cm / 横 10.7cm

価格 1枚 3,800 円

働き方改革のヒントがきっと見つかる! 女性技能士の「お仕事紹介動画」もご覧ください

子どもの頃からの憧れだった仕事に就いたり、国家資格 を取得し、仕事と家庭の両立を実現している方など会員企 業の中で、日々努力を積み重ね、自分らしく仕事に取り組 んでいる女性技能士にインタビューをさせていただきまし た。現在の仕事に就いたきっかけや日ごろの仕事内容、や りがい、今後の目標などを語ってもらっています。

社員一人ひとりが豊かな暮らしを送っていれば、きっと職 場の雰囲気もよくなり、業績アップにもつながるはずです。 働き方改革のヒントが詰まった動画をぜひご覧ください。















建築板金編

フラワー装飾編

和裁編

诰闌編

【お問い合わせ】

(石川県職業能力開発プラザ3F)

TEL.076-262-9020 FAX.076-262-3913

HP: ishivada.com メール: info@ishivada.com



